

## 小・中学生の皆さんへ

滑川町は、美しい自然と歴史に恵まれ、活力にみちた豊かな文化都市をめざして、次のような町民憲章を定めています。

- 一 緑をまもり 環境をととのえ 住みよい町をつくります
- 一 伝統を尊び 敬愛の心と創造性豊かな町をつくります
- 一 文化をたかめ スポーツを愛し 活力ある町をつくります
- 一 健康で仕事に励み 年寄り 子供を大切にす町をつくります
- 一 親切と思いやりの心で 手を取りあう町をつくります

この文集は、町内の小・中学生の皆さんが日頃の考えを書いた意見文の中から、令和五年二月十一日に行われた「十代からのメッセージ―青少年の主張大会―」で、代表者に発表していただいたものを、載せたものです。

皆さんもこの文集を読んで、ふだん考えていること、気づいたこと、見直して欲しいと思われることなどを文章にしてくわしく書いてみましょう。そうして、書いたことをもとに、今、自分にできることは何かを考え、実践する人になるよう努力しましょう。

# 目次

## 【小学生の部】

食品ロスから学んだこと……	宮前小五年	大森 瑠南
大きな輪……	月の輪小五年	井 美月
ぼくの夢は無限大……	福田小五年	志塚 巧海
犬たちが幸せにくらすために……	月の輪小五年	酒井 実春
災害時にぼくにできる事……	宮前小五年	小野里悠真
胸をはって夢を語れる社会へ……	月の輪小六年	岸本 蓮
優しい友達……	宮前小六年	山崎 未久
支えてくれる人……	福田小六年	小林 元気
言葉で傷つけない社会をめざして……	宮前小六年	吉田 莉菜
勇気を持って挑む自分……	月の輪小六年	高野 美咲

## 【中学生の部】

この障害を知っていますか……	滑川中一年	大平 心春
日本語の不思議……	滑川中一年	内田 慶
見た目……	滑川中一年	志塚 優花
ゆうだいからのメッセージ……	滑川中二年	小川 雄大
目立たなくても……	滑川中二年	河合 楓羽
時間は感情……	滑川中二年	塚越 奏斗

## 食品ロスから学んだこと

宮前小学校 五年 大森 瑠南

わたしは、道徳の学習と総合の学習で食品ロスについて学びました。日本では毎日あたり前にあたたかいご飯をおなかいっぱい食べることができ、じゃ口をひねればきれいで安全な水を飲むことができる生活を送っています。しかし、日々食べ物や水に困った生活を送っている国も世界にたくさんあると知りました。二〇二一年の世界きが人口は八億二千八百万人にも達したそうです。その人数にとってもおどろきました。

日本での食品ロスの原因は大きく分けて二つあります。一つはスーパーマーケットやコンビニ、飲食店などで廃きとなる事業系食品ロスです。この近くにもありおばあちゃんが以前働いていたスーパーでは、食品ロスさく減に向けてどんな取り組みをしているのか調べてみました。スーパーには、埼玉県内に数か所、スー

パーの農場があるそうです。そこではとれたてのしんなんな野菜がお店に並ぶだけでなく、お店で出してしまった生ごみをリサイクルし、肥料としてまたスーパーの農場で活用し、リサイクルループに取り組んでいると知りました。また、余分な発注はしないように心がけたり、値下げによる売り切りも力を入れているそうです。スーパーの値引きシールには、緑のラベルに（食品ロス削減にご協力頂き、ありがとうございます）と書いてありました。単なるシールでも、その言葉を見てわたし達消費者も気持ちの良い買い物ができると思いました。

原因の二つ目は、家庭から出る家庭系食品ロスです。わたしの家でも、つい多く作りすぎてしまった食べ物を捨ててしまったり、家族の食べ残しを捨ててしまったりした経験があります。ふだん買い物をする時に、本当に必要かよく考え、必要な分だけを買うようにし、料理を作る時や食べる時も常に食べきれる量を意識していれば、買い過ぎによる廃きや食べ残しもなくなると思えました。そして賞味期限切れの物を捨て

る事を防ぐためにも、月に何度か冷ぞう庫の中身を整理し、賞味期限が近いものから使っていくことを心がけていければ良いと思います。

食品ロスは、環境の変化にもつながってしまい、野菜やお米を作ってくれた農家の人の努力もむだになってしまいます。私たち一人ひとりがしっかりと食品ロスを減らしていけるように意識して行動に移すことが大切だと思いました。



## 大きな輪

月の輪小学校 五年 井 美月

わたしのおばあちゃんは、病気で体が不自由になり、一人では歩けません。外出する時は、車いすを使ったり、おじいちゃんに支えてもらって歩いたりしています。

ある日、おじいちゃんとおばあちゃん、わたしと妹でスーパーマーケットへ行きました。その時に、おばあちゃんはスーパーマーケットにあった車いすに乗って、おじいちゃんにおしてもらっていました。けれど、おじいちゃんは、買い物カートも使うので、とても大変そうでした。でも、おじいちゃんはわたしや妹に手伝ってほしいと言いませんでした。そこで、わたしが車いすをおしました。わたしは、おじいちゃん、おばあちゃん二人だけの時は、どうしているのだろうかと思いました。この時、初めて車いすでの買い物の大変さについて考えるようになりました。

帰ってから、インターネットで、車いすの便利グッ

ズについて調べました。車いすせん用のトレーとカゴをひぎの上のせて買い物をするグッズ、車いすの後ろや前の足元にカゴを置くようにする器具、車いすに乗りながらおせる買い物カートなどがありました。近くのスーパーマーケットに、せん用トレーとカゴがあるのを発見しました。でも、他の便利グッズを見かけることはありませんでした。そして、車いすの設置も一〜二台しかないようでした。

インターネットで知った車いすの便利グッズは、あまりインターネットを使わないおじいちゃんやおばあちゃんは知りませんでした。また、介護サービスを受けられるおばあちゃんですが、「困っている」「助けてほしい」と言いづらいおじいちゃんおばあちゃんは、サービスを利用していません。そんな状況は、弱い立場の人には、よくあることではないかなと思いました。

学校で勉強している、SDGsでかかげられた『すべての人に健康と福祉を』や『住み続けられるまちづくりを』という目標を思い出しました。この二つを實現するには、制度やシステムづくりだけでなく、高

れい者や障害のある方などサポートが必要な方々の声がとどく環境づくりが大切です。声をあげられない人がいる、だから福祉は待っているのではなく、人と人が積極的に関わっていくことが求められます。それは、国や市町村の福祉サービスだけでなく、企業や地いきの人々といった大きな輪で取り組むことが重要だと思いました。そうすることで、みんなが気持ち良くなるのではないのでしょうか。わたしも、今回の経験を生かして、身近な福祉に目を向けていきたいです。



## ぼくの夢は無限大

福田小学校 五年 志塚 巧海

ぼくの将来の夢は、いっぱいあります。やってみた  
いこと、興味があることがたくさんあるからです。こ  
のことについて、じいちゃんは、

「やりたいことがいっぱいあつていいじゃない。その  
ために、勉強もがんばってね。」

と言ってくれています。とても勇気がわいてきて、が  
んばろうという気持ちになります。

今日は、その中の一つをお話します。

ぼくは、滑川町にあるエコミュージアムセンターで  
働きたいという夢があります。エコミュージアムセン  
ターは、滑川町の自然や文化の情報収集や提供をして  
います。天然記念物のミヤコタナゴのはんしよくや生  
態に関する調査や研究、自然に返すことに向けた取組  
を行っています。滑川町の自然について、よく知るこ  
とのできる博物館です。

興味をもった理由は二つあります。

まず、ぼくは水辺の生き物が好きで、エコミュージ  
アムセンターへよく行っていました。去年の夏休みも  
よく通いました。自由研究で、水辺の生き物について  
調べたからです。その時のことが、印象に残っていま  
す。とれた魚の名前が分からなかったので、水そうを  
持つて聞きに行きました。その時、わざわざ奥の方に  
いた職員の方も出てきてくれたのです。親切に教えて  
いただきました。とてもうれしかったです。

もう一つは、柳谷沼のボランティアをしたことです。  
エコミュージアムセンターのお兄さんといっしょに、  
沼の調査をしました。水質、水温、生物を調べる初め  
ての経験ができました。少し難しいこともありましたが、  
調査ができて楽しかったです。お兄さんの真剣な  
顔がかっこよくて、あこがれました。

もし、エコミュージアムセンターで働けたら、もつ  
と、滑川町民が来てくれる場所にしたいです。行くだ  
けで滑川町のことがよく分かるので、町のシンボルに  
なるような、お手伝いがしたいです。

ぼくは、正直、勉強が好きではないけれど、将来の

自分のためにがんばります。そして、いろいろなことに挑戦したいです。失敗してもあきらめずに、楽しむ気持ちをいつも持ち続けていきたいです。

ぼくの未来は、無限大です。



## 犬たちが幸せにくらすために

月の輪小学校 五年 酒井 実春

みなさんは保護犬を知っていますか。私は最初、保護犬は助けられた犬だと思っていました。けれども一度は保護されても、飼い主が見つからなかったら殺されてしまう犬達でした。

私が保護犬を知ったきっかけは、近所に住んでいるおばちゃんが保護犬を飼っていたことです。私はその犬とふれあったことで、犬が大好きになりました。その犬は赤ちゃんが産めなくなったという理由で、飼い主さんが処分しようとした犬だったとおばちゃんから聞きました。私はその話を聞いて命の大切さを知っている大人が、かん単に自分の都合で命をうばうという事がショックでした。そしてそのおばちゃんは

「どんな時でもちゃんと世話をして、最後まで責任をもって飼えないのなら飼ってはいけませんよ。」

と言っていました。私は今、犬を飼っています。飼う前にお父さんとお母さんと散歩は毎日する・ご飯をわ

すれずにあげてを約束して飼いました。でも毎朝早く起きて、散歩をする事はん単な事ではありませんでした。雨の日や風の日や寒い日や暑い日。どんな日でも散歩をしなくてはいけません。散歩に行きたくないと思つた時、私はおばちゃんと言葉を思い出し散歩に行きます。

私は犬を飼つた事で、たくさんの幸せをもらつています。犬は言葉で話すことはできないけれど人間の言つてゐることを、本当に良くわかつています。うれしかったり、悲しかったり、さびしかったり、楽しかったり：色々な感情があると私は犬から教えてもらいました。だから私は犬を飼うということは、犬の気持ちによりそつておばちゃんから教えてもらった「最後まで責任をもつて飼う」ということを社会のみんなが考えることが大切だと思ひます。

保護犬が少なくなり、すべての犬たちが家族と幸せにくらせる世の中になることが私のねがひです。

## 災害時にぼくにできる事

宮前小学校 五年 小野里 悠真

毎日テレビを見てみると、多くの自然災害についてのニュースが流れてきます。その中でも、特に地しんのニュースが多いと感じます。ぼくにとって一番身近な災害だと思ひます。

調べてみると、日本は地しんの数が世界で二番目に多い国です。年間で千回から二千回の地しんが起つています。そこで、「ぼくにできる事は何かあるか。」と考へてみました。

まずは身の安全確保です。地しんが起きた時の訓練で机の下にかくれて身を守ると学校で教わりました。家で地しんが起きた時でも、学校で練習したとおりできるようにしたいです。「練習でできない事は、本番でもできない。」お父さんからよく言われる事です。

次にやるべき事は、情報収集し早めに状況ようを知つておく事です。二次災害に備えひなんする必要があるか、必要があるならどこに、どうやってひなんす

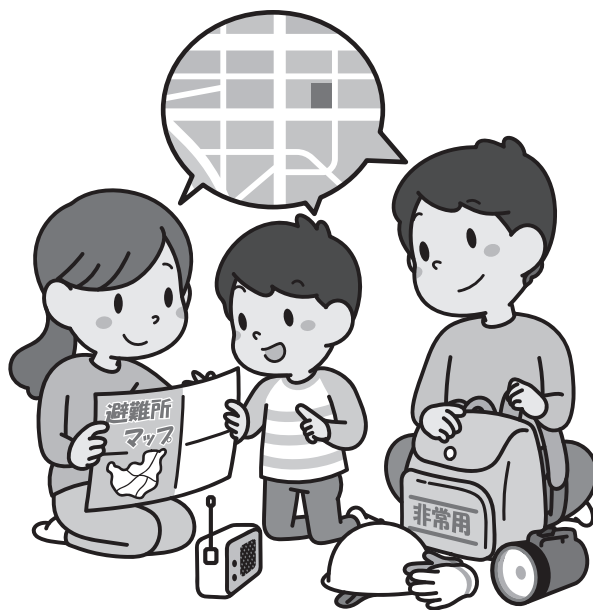


るかを決めなければ命にかかわるおそれがあるからです。そこでぼくは、お父さんからラジオの聞き方を教えてもらいました。ぼくは、ラジオを聞いたこともないし、さわったこともありませんでした。

また、家では災害時の集合場所を確にんし、実際に徒歩で歩いてみました。総合体育館、コミュニティセンター、宮前小学校などへ意識して歩いてみると、いろいろときけんな所が見えてきました。備えもとても重要だと思います。き重品、けいたい、ラジオ、照明器具、救急薬品、非常食、衣類等を用意しておけばいっ災害が起きてもすぐにひなんできます。そして、地いきのみんなで助け合う事も大切だと思います。災害ボランティアという活動を通して、ぼくも将来困っている人がいたら助けたいと考えています。だから、日ごろから困っている人を見たら声をかけていくようにしていこうと思います。

このように、災害はいつ起こるかわかりません。日ごろから準備をすることがとても大切になってくると思います。ぼくにできることを準備し、いざという時

に行動できるようにして、困っている人の助けになれるように、これからもがんばっていきたいです。



## 胸をはって夢を語れる社会へ

月の輪小学校 六年 岸本 蓮

私は将来、看護師になりたいと思っています。そのきっかけは、入院したときに担当してくれた男性看護師さんに憧れたからです。

私は生まれたときから体にあざがありました。病院で調べてもらったたら、そのままにしておくが悪性のもになってしまう可能性があったため、手術をして除去することになりました。小学校一年生の夏休みに手術をして入院しました。手術の傷が痛くて眠れなかったときに担当の男性看護師さんがとても親切にしてくれました。傷が当たらないようにクッションを置いてくれたり、痛み止めを持ってきてくれたりしました。夜中でも何度も来てくれて安心してました。看護師は女性の仕事だと思っていましたが、その病院では男性の看護師さんが何人もいたので、私も担当してくれた人のような思いやりのある優しい看護師になりたいと思います、将来の夢は看護師になりました。

しかし、知り合いの現役の看護師さんやおばあちゃんにそのことを言うと、

「看護師は大変な仕事だから絶対にやめた方がいい」と、みんなから反対されてしまいました。確かに現在流行している感染症のえいきょうで大変だと聞きました。人手不足による激務や看護師の離職率が増えていることもニュースを見て知りました。母は、

「この感染症は完全になくなっていないのに、マスクをしたくないとか、自分は移らないから大丈夫と行動している人がいる。だから感染者が減らない。国が医療現場で働いている人たちの意見を聞かずに行動制限をゆるめることによって、また感染する人が増えてしまっている。一方は今まで通りに楽しく生活しているのに医療現場では、そのしわ寄せが来るから、国も個人もちゃんと考えてほしい。」と言っていました。

これを聞いて私は、看護師の仕事を大変にしているのは、私たちかもしれないと思いました。そして、一人一人の意識を変えることが必要だと考えました。「自分だけが良ければ」というような考えではなく、みんな

なが周りの人のことをもつと思いやれば大変な思いをする人がもつと減ると思います。みんなが責任をもつた生活を送ることで、感染率が下がり、看護師さんの負担が減るのです。

私の夢が応援されるためには、社会が変わる必要があります。社会全体で、医療機関の負担を減らせるよう考えなければなりません。やはり、一人一人が思いやりのある行動をしてほしいです。そうすれば、「大変な仕事だからやめた方がいい」と言われる仕事ではなくなると思います。思いやりのある行動で、「やりがいのあるいい仕事だよ」と言われるようになればいいなと思いました。人のために尽くせるやりがいのある仕事を社会全体で守って欲しいです。そして、私は将来、担当してくれた男性看護師のような思いやりのある看護師になりたいです。

## 優しい友達

宮前小学校 六年 山崎 未久

私には、大切な友達がいます。その友達皆に感謝しています。この先もずっと一緒に遊んだり話したりしたいと思っています。大切な友達がどうして素敵なのか考えてみました。

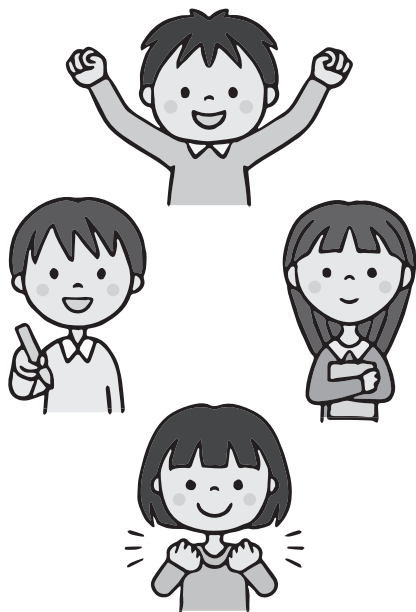
まず素敵だと思うところは、優しいところです。元気がない時にはげましてくれたり困っている時には、助けてくれたりします。また、勉強も教えてくれたり、なやんでいる時には、解決策と一緒に考えてくれたりします。友達に応援してもらって元気が出た時。なやみ事が解決した時。そんな時、私は友達に「ありがとう」を伝えます。そして私も、友達に頼られるような人になりたいなと思います。そのためにまずは、「ありがとう」を大切にしたいです。「ありがとう」で感謝を伝えれば、みんな優しい気持ちになれると思うからです。

私の友達の素敵なところは他にもあります。

それは、がまん強いところです。ある時、学校行事の班決めがありました。その時先生が「全員が納得する班決めは、ありません。自分の思う通りになった時は、必ずがまんしてくれたい人がいます。自分以外の人の事を考えゆずり合いが大切です。」

と言っていました。私はそれを聞き、まず友達のことを思い出しました。私の友達は、いつも周りを見て考えて行動していたからです。自分の事ばかり考えるのではなく、時にはゆずる、とても大切なことだと思います。いつもがまんする事が必要なわけではありません。がまんできることはすごいと思います。私は、大変な時、自分の事でいっぱいになってしまいう時もあります。でも優しい人は、周りに気を配ってがまんすることもできるので、すごいなと思います。

いつも怒っている人より、優しい人の方が話しかけやすいと、私は感じています。そんな優しい友達に、いつも私は支えられています。これからも、小さい事でも「ありがとう」を言葉にして、感謝の気持ちも伝えていきたいです。



そして、私も優しい人になりたいです。周りの人に気を遣ってがまんができたり、困っている人に声をかけたりできる、私の友達のような人に。

みなさんも、周りの友達に目を向けてください。優しい人が必ずいるはずです。そして友達を大切にしてください。私も、友達を大切にしたいです。そして「ありがとう」が沢山あふれる優しい学校にしたいです。

## 支えてくれる人

福田小学校 六年 小林 元気

僕は、サッカーをやっています。なぜなら大好きだからです。

そんなサッカーを続けることができるのは、家族の存在が大きいです。ご飯やお弁当を作ってくれたり、遠くでも送迎をしてくれたりします。また、コーチの存在もあります。練習試合をするチームを組んでくれたり、グラウンドを用意してくれたりします。家族やコーチには、日頃から感謝することを忘れてはいけません。僕は、日頃から感謝をしています。時々叱られると、

「なんだよ。それくらいで怒るなよ。」  
と思ってしまうことがあります。でも、叱ってくれるということは、僕のことを思って叱ってくれているのだと思います。

父と母は、僕の世話だけではなく仕事もしています。毎日疲れて帰ってきてから、家事をしたり僕の習い事

の送迎をしてくれたりします。また、姉にも協力をしてもらっています。サッカーは土日もあるので、姉がひとりで留守番になってしまうことがあります。ひとりで寂しいかもしれませんが、我慢してもらっています。

いつも支えてもらっているのは申し訳ないので、僕にできることを考えてみました。例えば、サッカーで汚れたユニフォームは自分で洗って干すことや、母が忙しそうにしているときは進んで洗濯物を畳むことなどです。また、サッカーを続けるためには、お金もとてもかかります。足が大きくなれば新しいスパイクやソックスを買ったり、遠征に行けば交通費や宿泊費がかかったりします。こんなにも、時間とお金を使ってくれている上、さらに母は僕の好きな食べ物もお弁当に入れてくれます。僕は、とてもうれしい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいになります。

僕がお金を払うことはできませんが、買ってくれたものを大切に使うことや、お弁当を残さず食べることは僕にできることだと思います。

このように、僕が好きなサッカーを続けるために、コーチや家族みんなに協力してもらっています。そのことをこれからも忘れずに僕はサッカーを頑張りたいです。そして、今は一生懸命練習して試合に勝ち、将来は僕が働いたお金で美味しいご飯を食べに行って家族に喜んでほしいです。



## 言葉で傷つけない社会をめざして

宮前小学校 六年 吉田 莉菜

みなさんは「ひぼう中傷」という言葉を聞いたことがありますか。ひぼう中傷とは、特定の人をたいして、言葉でぶじよくやいやがらせをしたり、デマやうそを触れ回ったりすることです。ひぼう中傷は対象者の名誉権をしん害するものであり、言葉の暴力とも呼ばれています。

ひぼう中傷は、相手の人格や外見・性格・持ちようなど「その人そのもの」について、否定的な発言をすることです。例えば、「バカ」や「アホ」、「ブス」「ぶりっ子」などです。なかでもSNSでのひぼう中傷が起きやすい傾向にあるそうです。SNS上でのいじめや物理的・心理的なこうげきのことをネットリンチといえます。なぜ、SNSでのひぼう中傷が起きやすいのでしょうか。

主な理由として、コロナ禍にともなうSNS利用時間の増加、多くのSNSでの匿名性があげられます。

おそらくひぼう中傷の加害者は、軽い気持ちだったと思います。でも、ひぼう中傷を受けた相手はどうでしょう。どんなささいな言葉だったとしても、傷つきます。ひぼう中傷の加害者は、そんな言葉で傷つかないと思っっているのでしょうか。でもひぼう中傷をされた相手は心に深い傷をおいます。実際にひぼう中傷で心に深い傷をおい、自殺してしまった人もいます。

私は、ひぼう中傷を防ぐために、なにかを投こうする時は、AIなどで暴言など、ひぼう中傷につながる言葉がないかを確認し、暴言などがあつた場合、投こうできないようにするべきだと思います。もしくは、投こうする前に、その言葉がひぼう中傷につながるかどうかの確認画面をもうければ良いと思います。

私は、言葉は人を喜ばせるためのものだと思います。SNSはとても危険で、こわいものだと言われってきましたが、SNS上でのひぼう中傷などに関するニュースを聞いたたびに、改めてSNSにきょうふ感を覚えます。言葉の力は、とても強いです。人を救うことも、傷つける武器になることもあります。そのこと

を世界中の人々が知っていれば、ひぼう中傷だけではなく、いじめなどもなくなり、辛い思いをして、自ら命をたとうと考える人も、いなくなると思います。

言葉の使い方というものは、とても難しいです。それでも私たちは、言葉とともに生きていきます。言葉でだれも傷つかないということは、難しいと思います。でも、ひぼう中傷のない、言葉でだれも傷つかない、そんな未来が来ることを私は願っています。



## 勇気を持って挑む自分

月の輪小学校 六年 高野 美咲

「勇気を持って挑むか、棒にふるか」

この言葉は、私が高学年になって、多くの経験をしてきた中で、悩んだり難しかったりしてかべにぶつかった時に、出会った言葉です。勇気を持って挑む事ができない自分をどうにかしたい…。そんな私にヘレンケラーの言ったこの言葉は、とにかく挑戦してみようという前向きな気持ちにしてくれた特別な言葉になりました。

五年生の体育の時、かべ倒立や補助倒立の練習をした時に、自分では足を上げているつもりでしたが、中々かべに足をつける事ができませんでした。補助倒立でも、友達が支えてくれるところまで足が上がらず、周りの友達を見ていていかれた気持ちになりました。だから、かべ倒立や補助倒立を怖がらずにやっていた友達をみて、私もこうなりたいと憧れていました。そんな時に、ヘレンケラーの「勇気を持って挑む

か、棒にふるか」という言葉に出会いました。ヘレンケラーは一歳半の時に高熱を出し、視力と聴力を失いました。もし自分が一歳半の時に視力と聴力を失ったらと思うと怖くなります。でも、ヘレンケラーはちがいました。視力と聴力を失っても多くの事を成し遂げ、諦めることをしませんでした。これは想像を超えるものだったと思います。そう考えてみると、私が倒立に勇気を持って挑戦する事が出来なかったのは、少し練習しただけで満足したり、自分を信じたりする事が出来なかったからだと思います。このままでは何も変わらない。そんな自分を失くしたいと思い、今年の夏、家族と離れての五泊六日のキャンプに行きました。初めて会う人が沢山いる中での野外生活だったので、最初は行きたくありませんでした。でも、ここでもヘレンケラーのあの言葉が頭にうかび、勇気を持って挑んでみたいと思ったので、自分を信じて行ってみました。六日間家族と離れて不安な事もあったけれど、それ以上、知らない人と話ができたり、共同生活を通して相手を気遣うことの難しさと大切さを知ることができ



たので、自分を信じて参加して良かったと思いました。勇気を持って挑んだ事によって、いい思い出が出来たし、何より自分を信じる事が出来ました。キャンプ前の自分は、困難な事に勇気を持つ事が出来ず、ずっと棒にふるうとしていたけれど、後の自分は、勇気を持つことの大切さに気付くことが出来ました。その時に、いつも勇気を持って挑む事が出来ない自分が少しだけ成長出来た気がしました。また、私がいかに実際に勇気を持って挑んだ事によってヘレンケラーが成し遂げたことはやはりすごいことなのだと思えました。

中学校では、やった事がない経験を沢山するといいです。もし心が折れそうになったら、「勇気を持って挑むか、棒にふるか」を胸に一つずつかべを乗り越えていきたいです。



## この障害を知っていますか

滑川中学校 一年 大平 心春

皆さん、認知症を知っていますか。聞いたことはあるけど、少ししか知らないという人が沢山いると思います。認知症とは、脳の病気や障害など様々な原因により、認知機能が低下、日常生活に支障が出てくる状態のことです。認知症にはいくつかの種類があります。その中で最も多いのは「アルツハイマー型認知症」です。初めて聞いたという人が多いと思います。アルツハイマー型認知症とは、脳神経が変性して脳の一部が委縮していく過程でおきる認知症のことです。症状はもの忘れて発症することが多く、ゆっくり進行していくのが特徴です。私がなぜ認知症というテーマにしたかというと、私の大好きなおばあちゃんが五年前ぐらいに認知症になったのがきっかけです。初めの頃は物忘れを少しするぐらいの症状でした。その姿を見て私

も「思ってたより全然たいしたことないな」と思っていました。ですが最近では、財布を忘れたり、人の名前を忘れるようになりました。なので、この治すことのできない認知症を知って欲しいと思いこのテーマにしました。

今私は、おばあちゃんと接する時に心がけていることがあります。それは「今日何日」「〇〇の誕生日はいつ」などクイズを出すことです。そうするとおばあちゃんも笑顔になって、記憶力を高めることができるからです。私はこのクイズを始めてから、記憶力が高くなっていると感じます。なので、これからも続けていきたいと思っています。

今の世の中に対しこのような世の中になって欲しいという願いが一つあります。それは、認知症を治せる薬を作って欲しいという願いです。今の世の中には認知症を治す薬などはありません。ただ症状を抑える薬があるだけです。おばあちゃんは抑える薬を飲んでいますが、私から見て症状は治まってなく、進んでいると感じます。もし治せる薬が作られたら、沢山の人々

が助かると思います。なので私は早く治療薬が欲しいと心から願っています。

認知症は、とても怖い障害です。これを聞いた皆さんは「まだ若いし大丈夫」や「全然自分には関係ない」と思う人もいると思います。認知症は六十五歳以上だと六人に一人の割合でなるといわれているそうです。今から認知症対策をするのが大切です。今の世の中には治す薬がないので、もし認知症になってしまつたら、一生治らないで生活をするようになります。私はいつ大好きなおばあちゃんに忘れられるか分かりません。正直言って怖いです。なので皆さんにこのような思い、そしてなつて欲しくありませんし、とても恐ろしい「認知症」を知つて生活を送つて欲しいと思います。

## 日本語の不思議

滑川中学校 一年 内田 慶

みなさんは「いろは歌」を知っていますか。いろはにほへと、で始まる歌で平安時代にできたものとされる日本の古典作品です。そしてこの歌には古の日本の不思議がつまっています。

僕はこの文章を国語の授業で読んだときに、一つの疑問が生まれてきました。それは、この歌に「え」が三つでてくることです。とくに、昔の「ゑ」と今の「え」が両立しているのが一番の疑問でした。今まで昔の「ゑ」から今の「え」に変化したと考えていたものがいっしょに書かれているからです。翌日にインターネットでどうしてなのか調べたりしましたが、いい答えは見つかりませんでした。そこで母親に聞くことにし、いざ聞くと、驚きの答えが返ってきました。それは、いろは歌のつくられた平安時代には仮名が今の五十音よりもたくさんあったということです。これを聞いて僕は信じられませんでした。なにせ、一度もそ

んな話聞いたことなかったからです。しかし、母は

「だから、平安時代の日本語は今とは全然違う」

といい、インターネットで調べて、音声を流してくれたり、三十代の人はわ行の「を」を、あ行の「お」と同じ発音ではなく「うお」と発音する、わ行やや行に「い」、「え」、「お」があつたりするのも昔にたくさん仮名があつたからと、次々に証拠となることを教えてくれました。僕はそれを聞いて、あつけにとられてしまいました。それと同時に心の中で（日本ですごい）とワクワクした気持ちになりました。さらに、母が一冊の本を僕にわたして、「もつと日本のことを知りたかったら読んで」といいました。その本を読んでたくさんの新しい発見をすることができました。例えば、日本が仏教によって支配されなかったのは日本独特の考えがあつたからとか、どの時代にも道長や信長などが天皇に近づいたが、自身が天皇になろうとはしなかった。それは日本にとって天皇がとても根強い存在だからなどの学校で教わらない日本の特ちょうがありました。そう、日本は昔から世界のどこにもない考

えと宗教、ほこりがあつたのです。

日本では千年も前の時代に細かい発音一つ一つを仮名に表現していました。この事実一つで、僕は（日本ですごい）という日本に対する考えが変わりました。自分の国に強い自信を持てるようになりました。みなさんも、今一度日本について見つめ直してみてください。一つでも不思議が発見できたら調べてみましょう。その答えを知ることができたとき、自分の国に自信が持てて、考え方が変わるでしょう。そうすれば新しい世界がみえてくるはずだと思います。



# 見たい目

滑川中学校 一年 志塚 優花

世の中には、目に見えるものと目に見えないものがあります。それは障がいも同じです。視覚・聴覚や手足の障がいなどは見てわかります。今回考えてほしいのは、見たい目では判断出来ない障がいや個性についてです。

私が今回このテーマにしたのには理由があります。それは私の弟には、話すときに言葉が詰まってしまうなどの困っている部分があるからです。困っている部分はありますが、外見はごく普通の男の子です。

目に見えないと、

「なんでこんなこともできないんだ。」

「サボっているのではないか。」

と勘違いされてしまうことがあります。

“普通”の壁は、見えない障がいや個性を持っている人たちに立ちほだかります。私たちの周りにも“普通”の壁を乗り越えることを困難としている人がいる

と思います。そのような人たちに、私は自分ができる最善のことをしたいです。

ある日、弟が

「今日は学校に行きたくない。」と言いました。

理由を尋ねると、

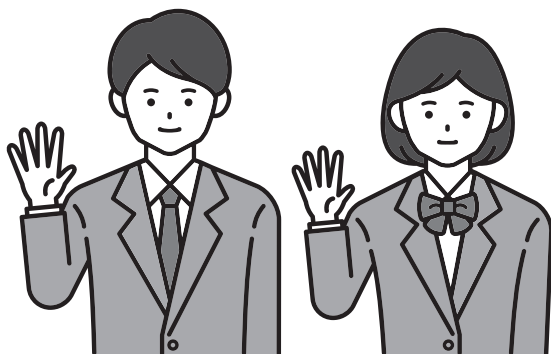
「喋り方が変。とか、おもしろい。と言われるから。」

と言いました。その時、個性に悩む弟の気持ちを理解したいと強く思いました。もし、悩んでいると知られなければ理解したいという気持ちも生まれなかったと思います。幸い、弟は友達や周囲の人に恵まれていますが、そうではなく、悩んでいる人もいます。

現在、ADHDやLD等の人は日本に三百九十万人程います。目に見えない障がいや個性を持つ人は周りから理解されにくいです。周りからどう思われているか怖いと考え、自分から声を上げることが出来ない人もいます。だから、一人で悩んでいる人が発信しやすい世の中になってほしいなと思います。

そのために私たちが出来ることは、周りの声を受け止め、自分たちから歩み寄ることだと思います。そう

なれば、障がいや個性についてもっと考え、理解出来るようになり、みんなが住みやすい世界になると思います。



## ゆうだいからのメッセージ

滑川中学校 二年 小川 雄大

人間は、周りの目ばかり気にして、窮屈に生きていく気がする。僕は普段の生活の中で、授業中に遠くから質問するだとか、学級委員や実行委員などの何かの代表に立候補するだとか、そんな小さな選択にせまられたとき、毎回さけてきました。いや、今も。まっぴりければどうせだれかがやってくれる。別に今でなくたって次があると、自分で都合のいい逃げ道をつくってきました。でも、そんな小さな決断の積み重ねが、大人になったときにとっても大きな山として形成されます。ほんの少しの勇気をふりしぼるだけで、まだ見たことのない、いや見ようとしてこなかった広い世界を見ることができるようになります。僕は、最近読んだ「夢をかなえるゾウ」と、「七つの習慣」という二冊の本を通して、そんな感情を手に入れることができました。僕はそれらから大切なことを学びました。「夢をかなえるゾウ」という本の『やらずに後悔していること

を今からやる』という言葉が心に残りました。今までの自分を見つめて、直接自分にうったえかけているよ  
うな、そんな感じがしたからです。「七つの習慣」と  
いう本には、『終わりを思い描くことから始める』と  
いう少し難しい内容がありました。『終わり』とはゴー  
ルのこと。『終わりを思い描く』とは、サッカーでい  
う、なんのためにドリブルやパスをつなげるのかとい  
うこと。それは、ゴールに点を入れるためです。自分  
の中に、常に変わらない『原点』をもつことが大切な  
のだとこの本から教わりました。僕は、これらの言葉  
を通して、自分の中にある原点（これからの目標）を  
つくりました。それは、「後悔しないように行動する」  
ということ。これは、今までの自分と比較してつくっ  
たものです。「自分の中に一つ、核をもって生活する  
ことが本当に重要。これで自分はガラリと変わった。」  
これは、今滑川中二年の社会科を担当する大野先生  
の言葉です。大野先生は社会の時間に自分の中に核を  
おき続けていくことの重要性を熱心に伝えてくれまし  
た。それほど、自分の中に原点をおき、迷ったときに

その原点に戻るといふのは大切なことなんだと気づか  
されました。

今までの自分の行動を通して、これからは物事一つ  
一つに、周りの目なんか気にせず、主体的に勇気を  
持って行動することで、自分の中の核、「後悔しない  
ように行動する」をブラさない生き方をしていきたい  
です！なにを核とするかは人それぞれです。みなさん  
もぜひ、自分なりの核を探してみてください。



## 目立たなくても。

滑川中学校 二年 河合 楓羽

私は吹奏楽部に入っている。特別入りたかった訳ではなく、他の部活ができる気がしなかったのと、親友が入ると言っていたからだ。吹奏楽の中でもパーカッションパート（打楽器）をやっている。普段は略してパーカスと呼ばれることが多い。入部してはじめてやる楽器決めの時に、聞かせてもらったアンサンブルがかっこよくて打楽器を選んだ。担当の楽器が決まって、ある程度音が出せるようになったら簡単な曲で合奏をした。打楽器には大きく分けてドラムと鍵盤があり、マラカスや鈴などの小さな楽器もある。種類が数え切れないほどあるなか、その時に私がまかされた楽器はバスドラム。私がやりたいと思っていたのは鍵盤のマリンバやシロフォンだったのに、なんで大きな太鼓をたたかないといけないの？この楽器拍を刻むくらいしかやることないし目立たないじゃん…。とっていた。でも今では私の相棒。今の打楽器メンバーの中で一番

バスドラムが上手だと自信をもって言える。コンクールで課題曲をやる時は必ずと言っていいほど私がバスドラムを担当する。それに究めていくとおもしろくて、思った以上に色々な音が出せるし、楽器の良さを音で最大限表現するためには意外とコツがいる。あまり目立たないけど、私が好きな打楽器の一つだ。

そんな私だが、一時期部活が嫌になった。原因は打楽器の中での役割分担だ。コンクールが一段落して、コンクールとは別のポップスの楽譜が何曲も配られた。曲ごとに目立つ楽器があり、いろんな楽器に挑戦してみたいと思った。その時、ほとんどの曲で友達とやりたい楽器が重なってしまった。友達ともめることを恐れ、私もそれをやりたいとは言い出せずに結局本当にやりたい楽器は一つもできなかった。でも、目立たない楽器でも楽しいもので、この楽器の音は私しか出していないと思うと頑張れる。この頃から、目立つ目立たないは重要じゃないと思いはじめた。

中学二年生になって、私はパートリーダーと副部長に立候補した。しかし、どれにもなれなかった。でも、



私は今の立場で満足している。百人ほどいる部員の中には私を知らない人がいると思う。だけど、同じパートの三人の後輩にはとても頼ってもらえてると思う。私は、技術力がものすごくあるわけでも、特別なことができるわけでもない。でも、後輩は、友達に私のことを自慢してくれている。自慢してもらえそうな存在になれてとても嬉しいし、逆にそんな後輩に私も気持ちの面で助けてもらっている。

私が伝えたいのは、目立つこと、大勢の人に知ってもらうことはそんなに重要じゃないということだ。もちろん人の前に出て行動している人も重要だ。しかし、目立たない物事ほど重要なものはない。また、目立たない事を頑張っている人にも目を向けてほしい。

## 時間は感情

滑川中学校 二年 塚越 奏斗

「時間って何だろう。」このような考え深い話題から始めると頭が痛くなる人が出てくるかもしれない。しかし、考えを広げると実に興味深い話題でもある。ではなぜこの話題にしたのか、それは私は五歳の頃から十年間時計をこよなく愛している人間だからだ。部屋の壁には多くの時計がある。しかしそのような部屋にも関わらず、私は好きな事に夢中になって時間を忘れてしまう。なぜこの様な事が起こるのか、そもそもその様な事が起こる時間とは結局何なのか。これがこの話題を取り上げるまでの一連の流れである。

しかし、この様な事を科学的に証明するのは難しいので、独自の考えで考えようと思う。初めに、「時間軸」に焦点を当てて考えようと思う。多くの人はどうやら、大きい一つの時間軸が地球を動かしていると思っっているようだ。しかし、私はこう考えた。人は一人一人自分の小さな時間軸を持っていて、それが集まる事によ

り大きな時間軸が出来て地球全体を動かしていると自分分は考えた。「じゃあ人間がない時代はどうやって地球を動かしていたのだい？」と聞かれても私には分からない。この話は私よりも頭のいい研究者たちに任せて終わりにしようと思う。

次に「なぜ時間はあるのか」という話題で話をしようと思う。私はこの問いの良い答えに辿り着いた。時間がある理由それは、「時間は感情」だからだ。何を言っているのかよくわからないことだろう。私はこう思っている。前述したように時間軸は一人一人が必ず持っている物であり、その時間の中には悲しい時間や、楽しい時間などの様々な時間が集まっている。これらの時間は多種多様な感情を生み出す。だから、「時間は感情」なのだ。言い換えれば、「時間は感情の製造工場」とも言えるだろう。この様な考えからやはり時間は、地球や人を動かすのに欠かせない物ということが改めて良く分かるだろう。そして、すべてをまとめて言えることは「時間は感情」。だから、感情豊かに生きれば自分の時間を後で見返した時に、もっと輝かし

い物となるだろう。人は死んだらどうなるかは誰にも分からない。別の時間軸でまた一から生きるかもしれないし、もうそこで終わりかもしれない。だから今を生きよう。精一杯生きよう。今もしこれを聞いている誰かが悲しい時間にいるのなら、なんとか工夫してそこから抜け出そう。つらかった時間も大切な人生のかけらだ。だから一生ほこりに思おう。何よりも大切な「自分の時間」を。

ご清聴ありがとうございました。どうかこれから末永く「自分の時間」を大切に。

